

義太夫

義太夫協会々報
第7号

昭和50年10月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館 TEL(541)5471

「チヨボ」をタブー語に

会長 吉川 英 史

わたしは、清元の「かさね」の解説放送の中で、「かさねがビッコになってから……」

といったところが、「ビッコ」といってはいけない」という注意をうけた。「めくら」というのはいけないということは前から聞いていたが、ビッコもいけないことは、その時初めて知った。

「週刊新潮」の六月十九日号に、「うっかり物も言えない『タブー語』の『偽善と卑屈』に挑戦」というのが出ていて、如何にタブー語が多いかを知って驚いた。農夫・漁夫・裏日本・山陰・床屋・坊主・クズ屋・ヤブ医者

・つんぼ・気違い……その他ズラリと挙げられている。

相手や特定の人に対していってはいけないばかりか、昔の人でも、曲名でも、合成して作られた言葉でも、使ってはいけないように、NETでは、「放送上させたい用語のいいかえ集」というのを作っている由。「クズ屋」は「廃品回収業」、「つんぼ」は「疎外された場所」、「めくら飛行」は「管制外飛行」といったぐあい。

しかし、この問題は、憲法で保証されている「表現の自由」と抵触しないだろうか、と

いうことも書かれている。ここでこの問題を詳しく論じる暇はないが、それなら「タブー」語の中に、「チヨボ」という語を加えて頂くのはどうだろうか。

「演劇百科大事典」を見ると、「チヨボ」について、こう書かれている。……「歌舞伎の義太夫語りのこと。太夫が浄瑠璃本の自分の語るべき箇所にはチヨボチヨボと傍点をふつたことからこの語が生じたという。(中略)俳優がセリフとしていう以外の義太夫節の地を語る。(中略)人形浄瑠璃と違って太夫の浄瑠璃が主体性を持たず、俳優の演技を中心としてこれに従属する立場であり、俳優の仕勝手の注文に従って文句を変えたり、前後したり、また文句を増減したりする。チヨボ語りは、本行の太夫からは蔑視されている。」チヨボが必ずしも本行よりやさしくはないし、丸本歌舞伎では重要な役目を持っている、蔑視すべきではない。チヨボという語感も良くない。これからは「竹本」と呼ぶようにしたい。後継者が少なくて問題になっている現在、給料や栄典の考慮のほかに、職業名も語感の悪い「チヨボ」をやめ、「竹本」オンリーにしたいものである。

昭和五十年文化庁芸術祭参加
義太夫協会公演会

「義太夫名曲でつづる東海道」

*十一月二十九日(土)十一時半開演
*日本橋三越劇場 *一、五〇〇円
詳細は追ってお知らせいたします。

高山樗牛の近松論

内野三恵

(一)

高山樗牛(一八七一一一九〇二)、名は林次郎、山形県出身。東大在学中『滝口入道の恋』が読売懸賞小説に当選、爾来小説の筆を断つたと伝える。浪漫派文学者、文芸評論家、東大で美学史を講じ、漱石より七年ほど後輩であった。稀世の秀才で文名一世を風靡したが、三十二才、結核で斃れた。東海(品川)、竜華寺に墓がある。

文業約十年の短期に、樗牛全集を遺す。集は、東大における講本、明治二八年(一八七五)彼の創刊『帝國文学』、主筆だった『太陽』、同人誌『六合雑誌』、日誌消息等を文友の嘲風、臨風、芥舟、愚仙により編集された。

標題の近松論は、全集第三卷「史論及史伝」の巻頭に納めた「近松巢林子」になる論文、稿末に明治二八年四月とあり、即ち二四歳の著、一読その天才蘊蓄に嘆息する。本論文は約六万七千二百字の大作、九章に分つ。即ち一、緒論二、批評及び其方法三、戯曲及び之に

対する近松の意見四、近松戯曲の種類及び結構五、近松戯曲の材料に就て六、近松の戯曲に於ける人物性格八、(標題本文共に欠く)九、巢林子の女性、以上で、九は細項目、(一)巢林子が戯曲に於ける『人』、(二)女子は如何なるものぞ、(三)愛と名譽、(四)嫉妬と愛の反面、(五)『天の網島』のおさん、(六)『出世滝徳』吾妻、(七)『槍の権三帷子』のおさる、(八)『宵庚申』のお千代を挙げる。

煩わしく前書をしたのは、樗牛の所論の概観を、いち早く読者諸学に把握して欲しいのである。且、樗牛は近松の作品を一括して戯曲と称し、シエークスピア、ゲーテの戯曲と同列にした慧眼に感入ったからである。また樗牛に於ては、劇作家も浄瑠璃作者も原点に於て戯曲家に帰する。従つて義太夫の素語りも、人形芝居も歌舞伎も、戯曲に帰納する。樗牛の近松論は、明治期に於て先駆的業績で、該博な知識、斬新な識見、潤達な筆致には驚かされる。なるべく原文を引用したい。但し、難字が多いため、文意を傷けず慣用漢字に改め、或は通意の限り修飾語を省く。

「近松門左衛門なる名が我が文学社会に喧しく、日本第一の戯曲家として世上の知る所となりたるは僅々数年のことにして一部の人を省きては其名だに知らざるもの多かりき。

今日巢林子を云うもの、一個の戯曲家として真に其真価を認むるや否やを知らず、一篇の評論さへ世に出でざるを見て奇怪の感なきを得ず。二三の世話浄瑠璃の解釈と評論は已に之を見たり、然れども未だ一個の戯曲家として之を論ずるものあるを聞かざる也。『ハムレット』は大なり、之を創作せるシエークスピアは更に大なるにあらざるや。『天の網島』『油地獄』『柱層』皆是れ大戯曲也。之を作りし巢林子は更に大戯曲家たるに非ざるや。

『紙治』『油地獄』を説くものはあり、巢林子を説くもの未だ其人を見ず。」
この抄出によつて、明治二八年期のわが国文芸批評界を瞥見しうる。またその二年前、正岡子規が無村を知り、新俳句運動を展開したことを想起する。

さらに樗牛はシエークスピアが、ウルリチ、ウエッツ、ゲルビヌス、ドーデン、ハドソンの評論を容れて、余裕綽々であった如く、近松も亦幾多の世評を認めたといひ、シエークスピアと近松との類似点に及ぶ。然も近松は、哲理、人生観、宿命論を語らず、戯曲文学に高尚な目的をもたなかったが、著作について学理的批評の標準において驚くべき価値をもつ所以は、森羅万象の真理に拠ると論断する。

樗牛はなお「善を善として勤む所なく、悪

1975. 10. 20

を悪として懲すところなく、人生の状態をありのまゝに描写するの明鏡となるは近松が戯曲の目的なり、理想なり、故に近松にありては戯曲は天然に同じ。」といい、即ちシェークスピアの「戯曲の目的は天然の鏡となるにあり。」と東西その説全く一致すと断言する。

ついで四章の「近松戯曲の種類及び結構」にふれたいが、戯曲の種類については一言に止め、結構に関し彼の意見を紹介したい。即ち種類を時代物と世話物に大別すると、近松の近松たる価値は一に世話浄瑠璃にあり、時代物は戯曲の態をなさず、その理由の第一を筋の首尾一貫を欠くを強調する。即ち段物として各段が個々に独立し、全編の必然的連繋なく支離滅裂だと難ずる。但しまた、『釈迦誕生会』『国姓爺』『善光寺由来』等は、スケール壮大、舞台を外国にひろげる等拔群ともし、且、見識において西鶴の比でないとする。また近松の時代物は正史の改変甚しく歴史の罪人と批難する論者に対しては、戯曲の本質を説き、戯曲は詩である。詩はそれ自体独立する世界であるとする明解な判断を以って応えている。今日稀に戯曲の虚実を、また現実界と芸術界を混同しかねぬものがある。穉牛は明治期、さきの如く弱年に於て、この区分を明かにしている。

この美学的理論は、近松の本領、世話物の結構に當って自由の天地を得て矢つぎ早に傑作を書き、所謂大近松の名を成した。しかも晩年十年の業績という。

(以下次号)

近頃思うこと

副会長 豊沢仙広

皇太子殿下に「火炎壇」……。天皇陛下御訪米阻止と、爆弾造りの若者たち……。何という考え違いの青少年が続出するのでしょうか。戦後三十年、日本人として恥ずかしい世の中を如何にしたら造れるものかと思えば、心配でまだまだ死ねないと思うこの頃です。しかし、その半面に義太夫教室へ入門して熱心に勉強する若人が沢山いるのですから、まだまだ日本は大丈夫と心強く、協会は一生懸命に人間造りを楽しんでおります。良き會長をいただいているわが協会は、ぼつぼつと内部の人間造りが出来上りつつありますので、大変嬉しく、「朱」に交われれば何とやら、昔からのいい伝えをつくづく感心している私です。

立劇場との共催で九月から開設。義太夫教室卒業生は四百人余、その中からプロを志した女子大卒十八人余、毎月二十日、二十一日の本牧亭公演で勉強しております。本牧亭のお客様も若返り、「活気」が出来たので、この機会に後継者造りをと、師匠連中懸命に指導致しております。

八月公演は若い人だけの勉強会で大変な人気でした。十月十七日・十八日二日間国立劇場参加。十一月二十九日、芸術祭参加公演(三越ホール)。十二月本牧亭は吉例「忠臣蔵」興行ですが、二十日はNHKと共催の心身障害児の為の慈善公演になります。大阪府協会女子部の方々も種々と参加して頂きたいと思っております。

義太夫協会の今後の発展は、正会員の努力と、特別会員、賛助会員、準賛助会員、皆様の御後援でよき仕事ができるのです。皆様、御自分の義太夫協会であることをどうかお忘れなく、義太夫発展のため、御協力、益々力強く御支援下さるよう、伏してお願ひ申し上げます。

設立五周年を迎え、協会の事業の内、義太夫教室・学校巡演等を文化庁からも認めて頂き、四十八年から助成金を頂くようになりました。二階から目薬のようなものですが、永年の努力の蓄積を認められた訳ですから、一同張切って他の事業にも邁進致しております。歌舞伎義太夫(竹本連中)の研修事業も国

歌舞伎義太夫(竹本連中)の研修事業も国

協会の動き

(昭和四十九年度)

2月6日

定例理事会。五十年年度事業計画・予算案について。於須川

2月9日

75都民芸術フェスティバル 第五回邦楽演奏会に協会女子部が参加。関取千両・稲川内の段、新版歌祭文・野崎村の段を演奏した。於第一生命ホール。

2月20・21日

女流義太夫公演会 於本牧亭

2月27日

学校巡演 於二松学舎高校(二年)

2月28日

学校巡演 都立向ヶ丘高校 於東京文化会館小ホール

3月3日

学校巡演 於二松学舎高校(一年)

3月13日

学校巡演 於城西高校(男子部)

3月14日

学校巡演 於城西高校(女子部)

3月15日

学校巡演 於明星学苑

3月15日

竹本土佐広が芸術選奨文部大臣賞(古典芸術部門)を受賞。過去一年間に於ける優れた演奏と、女流義太夫界の指導者として新界に貢献したことに対するもの。

3月20日

女流義太夫公演会 於本牧亭

3月21日

女流義太夫公演会席上に於て、芸団協助成による新人奨励賞の表彰式を行う。本年度は義太夫教室出

昭和50年2月より
昭和50年10月まで

身竹本素之助・竹本越若が受賞した。於本牧亭。

芸術選奨授賞式、於国立教育会館

東横名韻会学生大会に、本年も義

太夫教室の生徒が参加。竹本弥乃

太夫・野沢吉平が補導出演した。

(昭和五十年年度)

定例理事会 50年度事業計画・予算、文化庁助成事業について

於須川

女流義太夫公演会 於本牧亭

竹本素丸・野沢松江初舞台

文化庁より四十九年度助成金 百五十万円交付。

竹本土佐広・芸術選奨文部大臣賞受賞記念の会 土佐広の「姫山姥」

の他、小唄の春日会の特別出演、

義太夫協会他の応援出演を得て、

華々しくも又充実した会となった。

於東京証券会館ホール

文化庁文化普及課の事情聴取。助

成金の増額、女義、竹本問題等、

協会の現況を聞いて頂く。

5月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

5月26日 芸団協第一回功労者賞を「永年

芸能に精進されると共に所属団体の

発展に貢献した」ということで

竹本重之助が受賞。赤坂プリンス

ホテルにて表彰式が行われた。

文化庁助成による義太夫教室、第

28期開講。会長、副会長挨拶の後

実習に入る。44名入講。於俳優協

会稽古場

協会の顧問でもある町田佳声氏の

米寿祝賀会開かる。協会からも多

数参加。於高輪プリンスホテル

常務理事会 総会準備その他

於事務局

6月11日 昭和50年度総会。会長、副会長挨拶、

昭和50年度報告、決算報告(5・6頁参照)、50年度事業計画、予

算案等を審議。34名出席。於新橋

演舞場三階大食堂

6月20日 竹本重之助・芸団協第一回功労者

賞受賞記念の会 協会々員多数の

友情出演あつて盛会。於本牧亭

6月21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

6月30日 伝統歌舞伎の保存に関する懇談会

が国立劇場会議室で行われた。歌

舞伎の義太夫(竹本連中)の危機

問題に論議が集中し、早急に対策

を建てることに一決した。出席者

は文化庁長官始め無形文化担当者、

俳優協会代表・演劇評論家・各邦

1975. 10. 20

義太夫協会々報 第10号

- 楽代表・国立劇場代表・松竹事務
他。当協会より吉川会長・扇太夫
理事・綾太夫事務局の三名出席。
- 7月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭
定例理事会 五十年慶芸術祭参加
について、慈善公演について
於新小松
- 7月23日 義太夫教室第28期、初級開講式。
会長挨拶、皆勤賞(9名)精勤賞
(15名)授与等が行われた。中途
入講者も含め四十二名卒業。於俳
優協会稽古場
- 7月25日 賛助会員納涼公演会 義太夫をは
じめ、端唄、俗曲、民謡等賑かに
演奏された。於三越劇場
- 7月30日 義太夫教室(中級)三味線コース
開講、19名が受講中
- 8月6日 義太夫教室(中級)語りコース開
講、25名が受講中
- 8月20・21日 女流若手夏季勉強会 盛夏の
勉強会も恒例となり、本年も好評
であった。於本牧亭
- 8月22日 竹本後継者問題についての打合せ
国立劇場養成部・松竹・当協会共
催で実施と決定。扇太夫理事・綾
太夫出席。
- 8月29日 「義太夫名曲でつづる東海道」の
芸術祭参加が認められる。
- 9月10日 「竹本講習」愈々開始。受講者三
名(何れも太夫希望)を得て国立
劇場稽古室にて行われる。
- 9月10日 邦楽連合会打合せ会 於新橋会館
- 9月12日 芸術祭公演委員会 於事務局
- 9月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭
- 10月1日 北米文楽の豊竹誉太夫・佐野誉の
お二人が一時帰国され、竹本越道
主催で歓迎義太夫会が開かれた。
於本牧亭
- 10月3・4日 国立劇場民俗芸能公演、人形
芝居(山辺と尻高)に竹本素
八、鶴沢津賀丹、竹本駒龍、
鶴沢駒登久が出演
- 10月4日 学校巡演、第24回長野県音楽教育
研究大会の招待演奏として、"柳"
の演奏ならびに解説を行う。長野
県下の約二百名の先生方。於駒ヶ
根市立赤穂小学校講堂
- 10月11日 定例理事会 芸術祭参加公演・東
京都助成邦楽演奏会・慈善公演・
吉例女流師走公演・祖先祭につい
ての打合せを行う。於新小松
- 10月17・18日 国立劇場公演日本音楽の流れ
「語りもの」に竹本土佐広・
鶴沢三生・豊沢仙広他出演。
- 10月20日 会報第七号発行

義太夫協会49年度 収支決算報告貸借対照表
(借方)50. 3. 31 現在
(貸方)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	102,923	基本財産	3,000,000
当座預金	65,608	運用財産	1,100,000
定期預金	3,000,000	前受金	31,000
普通預金	400	借入金	984,550
郵便振替	15,875	預り金	1,066,000
郵便貯金	7,435	未払金	2,374,325
未収入金	1,784,000	繰越損金	△2,491,676
仮払金	90,000	(小計)	6,064,199
立替金	26,100	差引当期益金	112,445
敷金	245,000		
什器備品	765,865		
電話加入権	73,438		
合計	6,176,644	合計	6,176,644

収 入 の 部	科 目	支 出 の 部	差 引 損 益
2,700,000	助 成 金		
1,852,360	寄 付 金		
1,187,030	会 費		
191,100	雑 収 入		
(5,930,490)	(小 計)		
	事 務 所 費	17,760	
	家 賃	360,000	
	事 務 用 品 費	46,585	
	事 務 費	30,210	
	給 料 手 当	754,900	
	交 通 費	86,470	
	通 信 費	169,765	
	交 際 費	152,270	
	会 議 費	77,950	
	消 耗 品	3,850	
	水 道 光 熱 費	13,540	
	倉 敷 料	60,000	
	印 刷 費	232,130	
	諸 税 公 課	3,570	
	手 数 料	18,415	
	支 払 利 息	14,000	
	宣 伝 広 告	5,600	
	祖 先 祭	50,300	
	資 料 蒐 集	6,890	
	会 報	156,960	
	諸 雑 費	30,555	
	(小 計)	(2,291,720)	
542,800	義 太 夫 教 室	2,465,540	△ 1,922,740
907,800	女 流 義 太 夫 公 演	1,940,775	△ 1,032,975
70,000	学 校 巡 演	816,760	△ 746,760
283,680	慈 善 公 演 会	308,160	△ 24,480
142,000	贊 助 会 員 会	264,640	△ 122,640
69,400	追 悼 公 演 会	79,825	△ 10,425
157,500	新 年 会	161,755	△ 4,255
506,950	邦 楽 演 奏 会	254,900	◎ 252,050
115,900	芸 団 協	30,000	◎ 85,900
(2,796,030)	(小 計)	(6,322,355)	
8,726,520	合 計	8,614,075	◎ 112,445

歌舞伎の義太夫 〓 竹本連中の

後継者養成事業

竹本講習始まる(一)

当協会設立以来の懸案であった、竹本の後継者養成が九月十日より愈々実施されることになった。協会定款の第二章第五条に歌舞伎義太夫の専門技芸士養成を掲げてあるので、前々より竹本育成案を文化庁文化普及課に提出し、助成方を願ったのだが、認められていなかった。一方国立劇場養成部でも早くから竹本研修を企画されていたが、不急と見られていたのか予算がとれず後まわしになっていたのである。

義太夫協会 第7号
1975 10. 20

それが、本年六月初旬に出版された「演劇界」六月号で「歌舞伎レポート」危機迫る歌舞伎の義太夫Ⅱ「チヨボ」の不足と対策をめぐって」という佐貫百合人氏(サンケイ)の特集が提示されるや、大きな反響を呼び起した。その内容は、(イ)太夫十一人の平均年齢六十八才、三味線十二人の平均年齢が六十四才という異常さ(特に太夫は七十才以下が三人しかない)、(ロ)東京にも地方にも壮青年の太夫・三味線がいらない(在野の供給源が涸渇している)、(ハ)文楽からの供給は望み薄である(これは文楽自体が足りないので当然)、(ニ)非常に難しい職業である(何人もの俳優と協調して

いかなければならない)、(ホ)新人養成は至難(育成にかなりの年月がいる)、(ヘ)養成プランを立てる上の前提として収入の安定・地位の向上・チヨボという呼び名を廃す等が必要(チヨボと呼ばれ、何の榮譽もなく、そして見合収入がなければ先ず希望者がいないだろう)以上の様な事項を挙げ、一刻も早く対策を立てねば手遅れとなる……と警鐘を鳴らしたのである。

この反響は多大で、俳優協会中村歌右衛門会長は直ちに文化庁・国立劇場に赴き、その対策につき相談を重ねられたのである。

その結果、六月三十日に文化庁長官主催の「伝統歌舞伎の保存に関する懇談会(特に竹本の後継者について)」が開かれた。出席者は郡司正勝・利倉幸一・市村羽左衛門・芳村五郎治・柏伊三郎・田中伝左衛門・竹柴金作・松竹永山専務・国立劇場福原理事・佐々木養成部長・伝統歌舞伎保存会小笠原事務局長・文化庁安達長官・内山文化財保護部長・福田無形文化課長の各氏、義太夫協会は吉川会長・竹本扇太夫理事・竹本綾太夫の三名。その席で論議されたことは、在野に若い太夫や三味線がいるかどうか、また文楽から入る者がいるか、そして素人義太夫の中からはどうか、であったが、何れも皆無にひとしく、新人を養成するしかないという結論が出たのである。その時文化庁長官が、その為には援助の用意があるということを明言された。以上第一回の会合としては誠に実のあるものとなったのである。

その後、当協会と国立劇場とでプランを練っている最中、俳優から竹本に転向したいという人(鏡秀介氏)が現われたので、昨年竹本に入ったばかりの竹本清太夫氏を加え、二名の講習生とにかく発足をしようということになった。八月二十二日、国立劇場佐々木養成部長・佐藤課長・秋元次長・松竹富田氏・竹本扇太夫理事・竹本綾太夫集り、要項の細部を定め、国立劇場・松竹・義太夫協会・伝統歌舞伎保存会の四者共催で九月十日より実施となったのである。

九月初旬、竹本福弥さんの子息(林明君)が加わることになり、三名の太夫志望者を得て開講したのである。初日の内容は、義太夫実習「妙心寺」(野沢吉平氏)・竹本実習「引窓」(竹本扇太夫・豊沢猿蓑両氏)であった。今迄竹本連中では、竹本雛太夫・鶴沢扇糸・竹本米太夫・鶴沢絃二郎・豊沢莚緑各氏、一般では竹本重之助・鶴沢三生・竹本越道各氏が教師として力を尽くされた。以後まだ何人かの方々に参加して頂く予定である。

この講習は、プランより実行が先になったので、種々の問題にぶつかりながら進むことになったので、実際に運営に携わっておられる国立劇場養成部の方々は誠にたいへん。茲に感謝の意を表する次第である。

(以下次号)

新入会員御紹介

五十年十月二十日現在

賛助会員

特別会員

準賛助会員

病氣お見舞

左の方々の御病氣お見舞申し上げます。
一日も早い御回復を一同お待ちしております。

§ § §

鈴木 一光氏 (相談役)

竹本 土佐広師 (理事)

豊沢 猿公師 (理事)

§

◆計報◆

高平巴秋氏 (賛助会員) 49年9月29日歿
竹本近衛太夫師 (正会員) 50年2月19日歿
増田いね子氏 (相談役) 御母堂が先般亡く
なされました。お三方の御冥福をお祈り申し上
げます。

編集後記

残暑見舞号の予定が、秋酣号になってしま
ったことをお詫びいたします。
日に日に物価は上り、協会も財政困難、し
かし一日も活動を停止する訳にはいかず、副
会長の尽力でやりくり算段というところで
す。次号は、すでに準備にとりかかっておりま
すが、義太夫教室・学校巡演・竹本問題等、
義太夫の後継者ということをテーマに、特集
号とすることになっております。皆さまの御
投稿をお待ちいたします。(バ切11月10日)